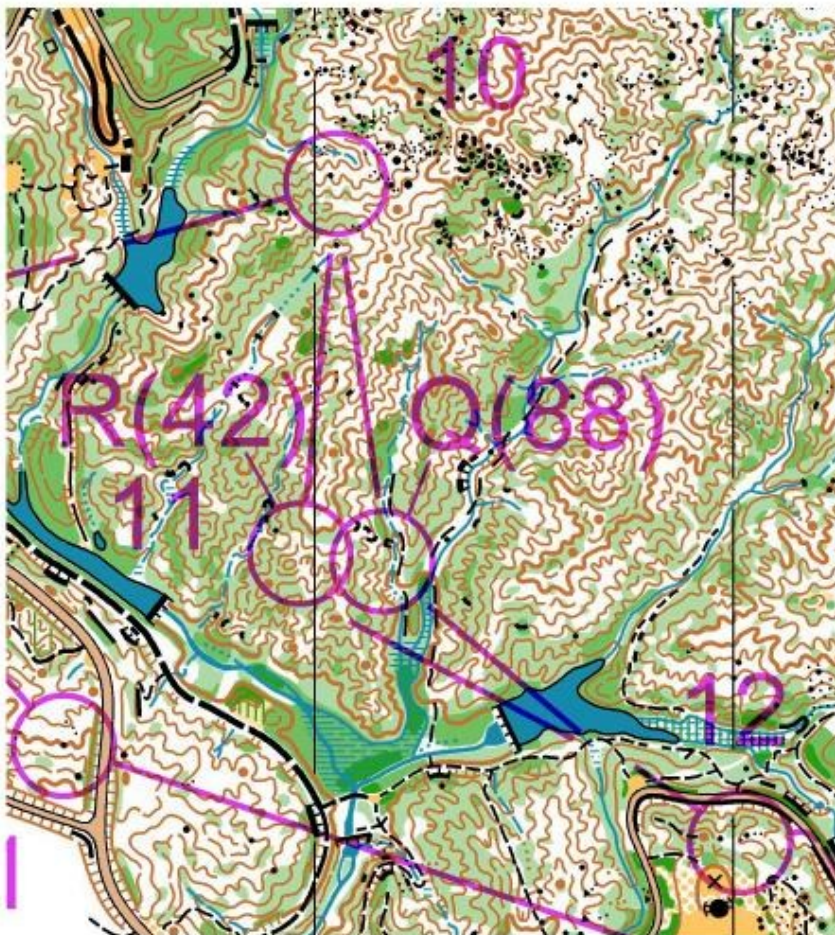


標記の件につきまして、リレー競技部門男子選手権クラスにおいて一部公平性を欠く事象が発生しました。成立までの経緯の概略については下記の通りですが、詳細については追って報告書にてご報告致します。

- ・リレー競技部門男子選手権クラスにおいて、本来はパターン内では共通で通過すべきコントロールで同一パターン内にも関わらず、4チーム（京都大学、慶応大学、千葉大学、一橋大学）が共通ではないコントロールを通過するコースが混入していた。
- ・実行委員会としては4チーム以外の混入の有無を確認した後、実行委員長とイベントアドバイザーと競技責任者で協議し、公平性を欠く事象であるため該当校ならびに参加校に対して情報を開示した。
- ・男子選手権クラス参加校のオフィシャル並びに代表者に対して本事象について報告をし、迅速な競技の成立・不成立の判断のため、調査依頼ではなく異議のある学校においては迅速な提訴状の提出を求めた。

参考：当日配布資料



MEの1走:BRZ, BRX, CQY
CQXのパタンにおいて11番
コントロールの振りミスがあ
りました。正しくは、R(42)、Q
(88)のところ、京都大、慶応
大は1走3走とも42に、一橋
大、千葉大は88に振られて
いました。

- ・ 1 件『競技の公平性を欠く問題である以上不成立とすべき』という旨の提訴状が提出されたため、裁定委員 3 名によって裁定協議を行なった。その結果、競技成立となった。

- ・ 裁定委員 3 名の見解は下記の通り。

理由：上記主張はひとつの考え方として、考慮に値する。しかし、規則は競技が公正に行わるために、定められているものであり、「規則に反するから、すなわち不成立」という解釈でなく、公正さの損失の度合いにより、不成立かどうかを判断する。

考慮する点として、

- ・ 当該 4 大学からの提訴がなかったこと
- ・ ラップデータを比較すると、本件における当該 4 大学間の当該 2 レッグ分のタイムの差異は最大 30 秒程度と考えられること。それらにより、全体成績への影響は軽微であると判断する。また、加盟員自身の「インカレを不成立にしたくない」という意見書も寄せられている。これらを総合的に判断して、大会は成立とする。